

5年 「たずねびと」～「習得」編～

活用場面では、中心人物：綾の心が大きく変化した山場の前後を中心に、作品全体を読み比べる活動からスタートしました。その際には、「名前」や「川」など、くり返し登場する言葉や表現に着目して比較しました。何度も出てくる言葉や表現が、物語の展開とともにどのように変化しているのかを捉えることで、子どもたちは物語全体で描かれていることを想像しようとしていました。

さらに、想像したことをもとに作中の綾になりきり、『広島で学んだことをお母さんへの手紙としてまとめる』活動に取り組みました。一部ご紹介させていただきます。



お母さんへ
わたしが広島で学んだのは、人として生きることの大切さです。
今
広島では何も関係がない人たちが何万人もいなくなってしまうています。いつ、誰がなくなってしまうのかはわかりません。だから今生きています。今持っている感情、1分1秒を大切にすることが今生きていくことが奇跡だということを知りました。今、この感情をなくってしまった人に伝えるためになくなってしまった人に生きていくことでの感情を覚えておくといです。感情を覚えておくためには今を楽しく生きていくことが必要だと思ったからです。

2025/10/27



お母さんへ
わたしが広島で学んだのは、人として生きることの大切さです。
なぜそう思ったのかは原爆が落とされる前は自分たちのように楽しく幸せに暮らしていた人たちが一つの原爆で明日がなくなってしまうけど私たちが忘れないこととこの子達はじつと私たちの中で生き続けてくれると感じたからです。その分私たちが後悔の無いようにそのたちの思い、夢、希望を私たちが叶えてあげることが大切だと思います。

2025/10/27



お母さんへ
わたしが広島で学んだのは、人として生きることの大切さです。
自分ごととして考えること
私が広島へ行く前は、戦争が起こったのは、何十年も前だと他人ごとのように捉えていました。しかし、現地であつた人や広島資料館等から「アヤちゃん」や亡くなったしまった方が体験した悲劇をもう二度と繰り返さないために、「アヤちゃん」達が亡くなってしまった戦争を何の意味もなかったものにしないためにも、今を生きている私たちが「アヤちゃん」達を覚えておく等、今を生きている私にもできることがあると分かったからです。

2025/10/27



お母さんへ
わたしが広島で学んだのは、人として生きることの大切さです。
理由が2つあります。亡くなった人たちの事を忘れなかつたらどれほど戦争は恐ろしいか忘れなかつたらこんな恐ろしい事は嫌だから起きないから今生きてみるみんながこのことを知ったら二度と起きないと思うからそう思う。そして亡くなった人たちがいるから今の自分が居るという事を忘れずに亡くなった人に感謝して忘れないでほしい。この様な理由から亡くなった人たちの事を忘れないと言ったことが人として生きる上での大切な事だと思っています。

2025/10/27



お母さんへ
わたしが広島で学んだのは、人として生きることの大切さです。
出会いを忘れないこと
広島では、いろんなことを知って平和記念資料館に行つた原子爆弾でどうなったのか追悼平和祈念館では原子爆弾で亡くなった子供達に出会った。土まんじゅうではおばあさんと楠木アヤちゃんと会った。この出会いを忘れずに生きていきその子たちの分も生きていくということ。

2025/10/27



お母さんへ
わたしが広島で学んだのは、人として生きることの大切さです。
幸せな今を大事にすること
私は、広島にいて今まで自分が当たり前だと思っていた幸せが実は当たり前じゃなくくてこれまで生きていた人が繁いであつたおかげである幸せということに気づきました。行く時は普通の名前だと感じていたポスターは帰る時にはいろんな人の面影が重なってわたしの頭に浮かんできました。そのおかげで私はこれまで当たり前の幸せだから大切にしないでいいと思つてた自分が恥ずかしくなって二度と幸せが壊れてしまふ人がいなくなるように一人でも戦争で辛い思いをして亡くなってしまった人たちのことを覚えておきたいと思いました。そしてこれからいつ戦争が起きるかわからないけど二度と起こらないように自分から行動したいと思いました。

2025/10/27

この学習を通して、子どもたちは「出来事のつながりを通して登場人物の変化を考える」「くり返し使われる言葉や表現から作者の思いを想像する」といった読みの視点を体験的に理解することができました。また、振り返りの中では「これから物語を読むときは、テーマを意識して読んでみたい」「言葉の変化にもっと注意して読みたい」などの声が聞かれ、物語全体を通して読むことの面白さに気づく姿が見られました。